

【会員だより】

バスから始まるフォッサ・マグナ 植物学

菊 地 賢

元東大教授のW先生に初めてお会いしたのは2006年、中国・雲南省の事だった。僕は共同研究者に誘われて、W先生を団長とする「森林施業研究会」の森林視察に混ぜてもらっていた。次は三年後に、台湾・阿里山の視察でお会いした。このいずれかの旅行だったと思う。移動中のバスの中で、W先生からいろいろの植物の話を伺う機会を得た。

そのなかに、「ミツバツツジ」の交雑帯の話があった。三種のミツバツツジが共存して、交雑帯を作っている場所がある。そこには三種の形質を併せ持つ個体もある、生態遺伝学の面白い研究材料になるのではないかな。そんなお話だった。

数年後、改めて現地を見てみないかというお誘いをいただき、先生の御自宅にも近い富士山麓の調査地を案内していただいた。そこは溶岩のゴロゴロとした痩せた土地で、低木層はツツジ科の低木が優占的であった。通常なら微妙に棲み分けている三種のミツバツツジが、ここでは攪乱でニッチが崩壊し、共存するという。この三種系の交雑帯では何が起きているのか。科研費が取れて、本格的に研究を始めることにした。

こうして富士箱根・伊豆地域に通うようになって、この地域の植物の特異性を改めて認識することになった。例えば「フジサンシキウツギ」などと称される、タニウツギ属の種間雑種。愛鷹山ではもはや種の原型を留めていないように見える。例えば「フォッサマグナ要素」と呼ばれる地域固有の植物群。調査中にハコネグミ、アシタカツツジ、アマギツツジ、カナウツギ、イワシャジンなど数々の地域固有種を目にした。休暇を取ってサガミジョウロウホトトギスを見に行ったりもした。固有種の中には襲速紀分布型の近縁種から隔離して種分化したようなものもいれば、系統的由来のなんだかよく分からないものもある。この地域のフロラの特異性と地史との関係に、俄然惹きつけられた。

折しもW先生は、フォッサマグナ要素植物を集めた植物園の建設を進められている。昨春に拝見したときは

まだ造林地の伐採という段階であったが、名勝「白糸の滝」に隣接した高台にあって、立派なものになりそうだった。五年後に開園予定とのことで、「それまでは死ねない」と冗談を飛ばしておられた。僕も何か役に立てればと思う。

これらの出来事がもともと遠く大陸のバスの中から始まっているのだから、植物とはつくづく縁だなあと思う。

(きくち さとし、森林研究整備機構 森林総合研究所)

もう25年、まだ25年

蓬 田 英 俊

岩手県林業技術センターが発足し、25年が経過した。平成5年に岩手県では、林業試験場と林木育種場、林業講習所が1つになり林業技術センターが発足し、育種部門に初めて研究員が配置された。それは私が、岩手県の林木育種を担当した年でもある。

この時期は壮齢期を迎えた林の手入れ不足が問題視され、間伐の促進が急務とされる中、造林面積は減少を続け林木育種はあまり注目されていない分野と感じていた。

当時の岩手県での林木育種関係の研究課題を振り返ると、「次代検定林データに基づく家系評価」、「精英樹クローンの人工交配による新品種の作出」、「スギ寒害及び冠雪害抵抗性クローンの検定」といった王道とも言える内容の他、「マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発」、「既存精英樹の耐陰性の検定」、「有用広葉樹の選抜」など病害や特殊用途への対応、さらに国庫補助事業の「東北地方等マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業」、「気象害抵抗性等次代検定事業」、「採種徳園改良事業」などの課題があり、極めて盛りだくさんの内容であった。平成6年には、これに「花粉の少ないスギの選抜と検定技術の開発」が加わった。今考えれば、検定林のデータをまとめてから、人工交配の設計を行い、育種集団林を造成し、と計画的に実施するのであろうが、その頃は、与えられた課題に対し、考える暇もなく闇雲に作業を繰り返したように思う。

県内林業の状況が変わってきたのは、平成15年頃か

らで、伐採面積の拡大から、平成19年にはカラマツを中心とする造林が拡大傾向に転じた。平成5年当初カラマツがこれほど注目されるとは、誰が予想したであろう。

研究課題を考える上では、25年はとても長い月日のように感じるが、過ぎてしまうとあっという間という気もする。林木育種では、長期的な視点が必要なのは、今更私が言うまでもないことだが、私にはその視点を持てなかったことが残念である。そして、今日も同じように日々の業務に追われる毎日である。

ただ、次に何が来るのか誰にも判らないのも事実。誰の言葉か失念してしまったが、関東林木育種場に在籍していた頃、「今の仕事は次の人のための材料になるのだ」と言われたことを思い出した。今まで作った材料や情報を次の代に渡せるように、また今の最大の課題カラマツ種苗の安定生産に向けて、もう少し考えて仕事をしていきたい。

(よもぎだひでとし、岩手県林業技術センター)